

創刊号
Autumn
2005

ナイル川



特集・奈良県立図書館開館



特集・奈良県立図書館開館

鼎談「奈良」をいま、発信する…………… 1

図書館開館オープニングセレモニー…………… 4

図書館開館に寄せて…………… 6

〔連載〕
図書館ツアー…………… 10

〔連載〕
若い奈良…………… 12

〔連載〕
図書館が読む…………… 14



「奈良」をいま、
発信する。

「図書館」という 斬新な名前に奈良を発信する夢を託す

十一月三日にオープンした図書館。

どんな期待が寄せられているのか。

今回は柿本善也知事と南都銀行の西口廣宗頭取をお迎えし、お二人の思いを語っていただきました。進行は千田稔図書館長です。

千田 今回、名前からして斬新な本館のオープンとなったわけですが、知事には就任以来の夢がようやく形になり、感慨もひとしおではないでしょうか。

柿本 平成四年、就任早々、基本構想の検討が始まりました。当時は各市町村や大学、企業の図書館が充実してきたこともあり、また、ちようと国立国会図書館関西館の設立が議論されてきた時期でもあり、県の中核機能として新しい図書館を設立するに当たっては、その位置づけを明確に打ち出すことが最大のテーマでした。折しもIT化が進む中、従来の図書館という枠を排して情報センタ的な機能を持つ拠点にしてはどうかと大胆な構想が打ち

出され、計画は進められてきました。古くは本館から本の時代へと変遷を遂げたように図書館は時代の伝達手段。近い将来、情報技術が伝達手段として汎用化する時代が必ず来ると思っていました。ならば、この情報技術を駆使し、都道府県の中で最先端の図書館を作ろうという構想が現実のものとなったのです。最低でも五十年は機能する図書館を作ってくれよと、スタッフには難しい注文もつけましたが(笑)、そこで名前も思い切って「図書館」としたわけです。

西口 ネーミングからして従来の図書館に抱いてきたイメージを払拭したなど、私も感じました。奈良には文化財をはじめ長年蓄えられた知的財産がありますが、平城京遷都千三百年を五年後に控えて、今こそ蓄積された財産を分散する時期にあり、機を得た開館だと思えます。ただ、発信するのは知的情報だけでなく、産業など、今の奈良の姿を広く発信して欲しいですね。

なにを発信すべきかを探るそれを創造する拠点に

千田 奈良は豊かな文化財があるおかげで

自ら発信せずとも、周りが発信してくれる有り難い状況にありました。その意味で、私はこのオープンが奈良自身が発信する歴史的瞬間と考えています。そこで、具体的にどんな発信方法があるのか、お聞かせください。

柿本 ストックされた情報を発信することも大事ですが、私が最も期待するのは一人で多くの方に来館いただいて、ここで何かを創り出してもらい、その“何か”を発信して欲しいですね。入館された人が自分の情報を入れ込む仕組みも作っていますから、ここで情報を創る、そのプロセスこそ大きな魅力だと思っています。むしろ、そうした幅広い情報こそ今の奈良を表現しているといえるかもしれません。

千田 この役割の一つにビジネス・行政への支援をあげていますが、経済界のお立場から頭取はどんな活用を期待されていますか。

西口 産業界を見渡してみますと、奈良に

は独自のものが実にたくさんあるんです。でも、これは！というものに欠ける。鮮烈に奈良ブランドを打ち出すために、情報を共有し、集まって話し合うスペースもなかつたんですね。

だが、こうした拠点ができたことで、共に創り、発信するあらゆる可能性が広がったと思います。例えば遷都千三百年に向けて、経済界として何をしたいか、またいいのか、まず地域ごとに出してみようかと話し合っていますが、それをどう交通整理し、アピールしていくかは模索とした状態です。ですから手法を具体化するときには、是非お力をお貸し願いたいですね。

千田 IT機器だけではなく、エンタランスホールには広いスペースが設けられていますから奈良ブランド誕生の経緯を広める企画展などにも利用していただければと思います。また協業を進める中で具体策も見えてくると思います。いずれにしても、遷都千三百年に向けて我々は前面に立つてPR活動を担うべき

情報の総本山であり迅速な情報入手の経路基地に

西口 しかも、発信先は日本に限らない。実は奈良産業界主宰のビジネスフェアには驚くような優れた製品が展示されているのですが、実際に訪ねていただくには限界もありますから、インターネットで同時発信できれば、より広い世界と繋がるのが可能になるでしょうね。

千田 南都銀行さんも最近、香港に次いで上海へ支店を出されたようですが、ビジネスの分野ではすでに世界と繋がっているんですね。



西口廣宗氏／南都銀行頭取

古都奈良の発展を経済界から支えるお一人。「これぞ奈良ブランドを打ち出すために、図書館に協働の場を求め、新しい奈良、インパクトある奈良を世界に発信していきたい」と語る。

西口 当行のお取り引き先のうちの約四〇％が東南アジアや中国と取引をしていますが、意外と地元の人知らない(笑)。

しかし、今、必要なのはそうした生の情報なのでしょね。奈良の千三百年は歴史や文化遺産だけではなく、実は時代に付随して連綿と続いた経済活動が支えていたのですから。

柿本 確かに今、何が行われているか広範囲に伝えたいです。そのために、例えばサテライトスタジオを設けて情報を逐次伝えるとか、いろいろな可能性も探っていきたい。

遷都千三百年に関していえば、ここから情報を発信するだけではなく、ここで面白いアイデアをすくい上げることもできると思います。ただ私が思うのは、確かに社会には情報があふれていますが、欲しい情報に到達するとなるとそう便利ではない。欲しい情報への入り口が分らないんです。少なくとも奈良の全て分かるというレベルの情報は集め、ここは「情報の総本山」であって欲しいと思いますが、同時に、

だという認識を持っています。

柿本 日本最古の図書館である「芸亭」が奈良に発したという歴史的な経緯を考えると、それに繋がる最先端の図書館が現代にどう発信するかは、それ自体、興味深いテーマでもありますね。



柿本善也氏／奈良県知事

平成三年十一月に知事に初当選された直後から基本構想の検討が開始された。「発信する図書館」という、かつてない発想の図書館は「遊」の理念を標榜する我が知事だから実現にこぎ着けたともいえる。

奈良のこういった情報が欲しいという人のために、情報の整理・ファイリング機能を持ち、迅速に情報にたどり着く仕組みにも取り組んでいます。いただきたい。そうした情報の経路基地になったとき「図書館情報館」本来の価値も生まれて来るのではないのでしょうか。

千田 そうですね。利用者みなさんと育てていく、楽しいな施設だと思っています。本日はありがとうございました。



千田稔氏／図書情報館館長

今回の冊談では進行役担当。歴史地理学者の第一人者として世界をフィールドに旺盛な研究活動を展開。このほど世界に開かれた図書館の顔として初代館長に。国際日本文化研究センター教授。



朝から次々と受付に

2005.11.1



図書館行きの第1便の到着



フルートの調べが流れるなか



京都ドイツ文化センター/ピヨルン・ルライ館長より目録の贈呈

柿本知事あいさつ

図書館 オープニングセレモニー



テープカット 左から 原田公子 国立国会図書館関西館館長、辻本黎士 奈良県議会副議長、柿本善也 奈良県知事、岡本知美 奈良県教育委員会教育委員長、千田稔 奈良県立図書館館長

今、図書館は、変革の時期を迎えている。例えていうなら、それは強風の中にある木々のようなものだ。人によつてはこれを危機と考えるかもしれない。しかし、私はこの変革を、情報が高いところから低いところに流れるような従来の図書館のイメージからの脱却するチャンスとしたい。ウェブの世界の様に網の目のように双方向に情報が伝わっていく新しい図書館のイメージに変革したいのだ。図書館がポータルとして、地域の情報が集まり、メディアや人のコミュニケーションにより、新しい情報が生まれていく。そのためには、図書館の森に新しいサービスの種を蒔かなければならない。

奈良県にもついに新しい県立図書館が建設された。私も国立国会図書館関西館に在籍中、少ない機会ではあるが、新図書館のお話

を聞かせて頂いた。だから、この図書館は建物が新しいだけではないことを知っている。そこにはオーサリング機能やビジネス支援等、新しい図書館サービスの種が盛り込まれている。この新しい種が大きな木として育ち、新たな知の森を形作るためには、木を育てる人とそれを利用する人、双方の力がたえまなく必要であることは言うまでもない。新奈良県立図書館情報館を核として様々な情報が交流されることにより、いにしへの伝統と文化があふれるこの地で、新たな知の創造が生まれることを祈念したい。



山崎博樹
秋田県立図書館 副主幹

図書館開館に寄せて

奈良県立図書館開館の期、おめでとうござります。インターネットの普及によつて我々のごく身近でも、電子掲示板から生まれた小説「電車男」や、数々の人気ブログの書籍化など、従来に無い情報生産の例が見られるようになってきました。いよいよ、その昔アルビン・トフラーが予言した「プロシューマ」生産消費者が活躍する時代を迎えたということでしょうか。このように、コンピュータネットワークの中から知識や情報の新しい生産・流通の仕組みが生まれつつあるこの時期に、人類が今日までかけて蓄えてきた貴重かつ膨大な知的資産である本図書館の世界と、コンピュータネットワークのなかで新たに生産されオীগナイズされてゆく知識や情報の世界をつなぐ「ハブ」あるいは「ノード」と



中西洋一
京都市造形芸術大学
情報デザイン学科助教授

して図書館が誕生することは、おおいに時期を得てまた意義深いことと考えます。奈良県立図書館は従来の図書館が持つ情報閲覧の機能に加えて、音声や映像をも含めたマルチメディア情報編集の機能を備えています。図書館情報館が奈良県民の「知の拠点」として、さらには「プロシューマ」の活動拠点としておおいに活用され、さまざまな知識や情報が生産、発信されてゆくことを期待します。

奈良県立図書館の開館、おめでとうござります。奈良県における情報収集拠点として、またおそらくは情報発信拠点としても大きく飛躍し、活躍していくことを期待しております。

近年、地方の中小企業をはじめベンチャー企業、大学のTLO(技術移転機関)などからの産業情報、ビジネス情報の需要が急増しています。中小企業は、長引く不況の中で生き残るため下請け体制から自社技術やノウハウを武器に自ら営業しようとしています。この際、自らが身を置くマーケットや顧客を調べる必要が出てくるのです。また、ベンチャー企業やTLOも技術開発段階から営業の段階に入ると、やはりマーケット情報を収集して望む必要に迫られます。つまり、ビジネスを展開し、

成長させていくには、どうしても「情報」が必要となつてきます。

さて、私自身は情報収集から調査、コンサルティングまで幅広く民間企業のお手伝いをさせていたのですが、企業がしかも首都圏の会社を中心となつています。前述した中小企業の支援まで手が回っていないのが現状です。

奈良県立図書館が、地域住民だけでなく、地場産業のビジネス情報収集の拠点としても活躍されていくことを願っております。



石川浩一
(株)日本能率協会総合研究所
MDB事業部長

これまで、私たち県職員の仕事の中で、国の省庁が決めた政策や事業を、法令や国の指示通りに間違いないく実施することが求められるような仕事や、大きな割合を占めていました。判断に迷ったときは、ややもすれば、その仕事や法律を所管している国の省庁にお伺いを立てるのが、適切な業務処理の方法と考えられてきたきらいがあります。

これからは違います。職員が自分で足を運び、見聞きした様々な出来事の中から、地域の問題を見つけ、政策課題を立て、解決策を自分の頭で考えなければなりません。前例主義を打破し、新機軸に挑戦することが必要です。実行錯誤や、場合によつてはだめでもともとというぐらゐの気持ちで仕事に取り組むことが必要になります。

その過程では、職場の同僚・上司はもちろん、地域住民の皆さんとも十分に意見交換や情報交換を行うこととなります。国の各省庁に対しては、必要と

あらば、これまでの制度や仕事の仕方を変えてもらうための提案や議論を仕掛けなければなりません。地方分権が進むということは、そういうことです。こうした仕事ややり方を進めるためには、様々な情報が必要で、思いつきと情熱だけではダメです。正確な統計データ、郷土の歴史、他府県や外国の事例、政策・事業の経緯や背景、ある論点についての様々な立場からの意見、主張等々を、的確に、効率よく調べればなりません。

県立図書館は、県民の皆様のための図書館であると同時に、県職員をはじめ県内の公務員が、よりよい情報に基づきよりよい仕事ができるようにサポートする図書館でもあります。

「ふるさとコーナー」には郷土史関係資料から最新の行政資料まで備えられ、各分野の専門誌を含む雑誌の種類も大きく増えると聞いています。部内の職員には、業務上必要な図書は購入はほとんど

リクエストするように、また、司書の皆さんにも遠慮せず問い合わせをするように、と言っております。

専門の研究者だけではなく、県や市町村の職員が、業務上の利用を積極的に進めることによって、県立図書館の調査研究図書館としての機能が磨かれていくと考えています。そのことは同時に、県民の皆様に対しても、身の回りの行政に関して疑問を感じたり、提案したいアイデアを考えついたときに、問題意識を掘り下げたり、データを確認したり、よりよい判断をしていただくためのサービスを向上させることにもなります。

県立図書館が、そういう図書館になるように、私たちが精一杯努力したいと考えています。



滝川伸輔
奈良県総務部長

地域の情報を集めるのに図書館を利用される方は多いと思いますが、私はどちらかというと図書類よりも生の記録資料を見るのが好きです。古文書類には、当時の村で起こったあらゆる出来事が記されており、土地関係の場合は関連する絵図面も作られます。年代や地域や興味のある事柄について集めれば、自分だけの地域史が出来上がります。また、意外に住民に密接した情報が残っているのが公文書なのです。公文書というと普段の生活から遠い存在と思われがちですが、私たちの生活は様々な申請・許認可制度の基盤の上に成り立っていますから、公文書には各時代の住民と行政の接点が生かされてきます。しかし、こうした生の資料を活用するには、そのた



金山正子
(財)元興寺文化財研究所
記録資料調査修復室長

めの検索ツールやノウハウが必要で。そうしたツールを提供し、記録資料の面白味を伝えてくれるのも図書館が地域に貢献できる大切な役割の一つだと思っております。地域に残された歴史資料をより多くの方が利用できるように、新しい図書館の発展を期待しています。

図書館開館に寄せて

生まれ育った自分の土地・国から外に出たときに、痛感する自国の文化。それぞれの文化を伝える手段として、大切な言葉と文字の文化。奈良に日本文化・日本語を学びにやってくる留学生たちは、滞在中に膨大な数の書物を買って帰ると聞いています。書物が、機械の中では得がたい「時間の共有」と言う「楽しみ」を与えてくれるからでしょうね。インターネットの発達で情報の共有が一般となつている今の時代、奈良でしか手に入らない情報は、五感で感じる情報ではないでしょうか。文化の違う国それぞれで異なる五感。言葉に命を与えて文字として「文化」を伝えるのは、書物の役目。それらの書物・情報を五感に語り掛ける「時間の経過」と言うエッセンスを加え発信する事が可



佐野純子
奈良インターカルチャー主宰

能になれば、国内外で新しい交流が生まれるのではないのでしょうか。時代を先取りしつつ、大切なものを「時」の中で風化させない工夫のある奈良県立図書館の誕生が楽しみです。

二〇〇五年十一月に新しい奈良県立図書館情報館が開館します。

奈良市、奈良県民はいうに及ばず近隣の方々にも従来の書籍、雑誌、新聞の貸し出し、読書空間を提供するのみならず、世界からの学術及び情報をインターネットを介して開発してゆく最新情報技術と設備を兼ね備えたセンターとしてご利用いただけます。

新しい図書館は大規模で(ゆつたりとした)利用者ややさしい建築(建物)で、訪問者に多種多様に変わる展覧会や講座を提供して、生涯学習の真の中心としての役割を担っていきます。

奈良の隣におります京都ドイツ文化センターは奈良県立図書館情報館が国際協力で積極的な関心をお寄せいただいたことを嬉しく思います。

新しい図書館開館に際して「日本におけるドイツ2005/2006」公式事業として「ドイツの二〇〇冊一九六〇―二〇〇〇美しい本を創るために」を開催していただくことに敬意を表します。

私たちは奈良県立図書館との緊密な協力関係を喜んでおります。これからも日本とドイツの文化関係をさらに高める興味深い展覧会を御覧いただけよう確信しております。奈良県立図書館とドイツ関連館との図書館活動の分野において日独の専門家のお互いの経験や学習について人的交流の機会に貢献できたらと願っております。

奈良県立図書館情報館と京都ドイツ文化センター情報・図書室の緊密な協力関係で、現在のドイツからの、またドイツに

関しての情報をインターネット検索をしたり、ドイツから資料を請求することも可能です。

奈良県立図書館が多数にわたる重要な活躍のご成功を願います。奈良県民の方々に多くの様々の提案を提供することの新しい、個性的な教育機関に祝意を申し上げます。

ピョルン・ルライ
京都ドイツ文化センター館長



情報と知識は、無形物で、ふたつとも人の暮らしに寄与するという点で共通しています。無形物といいますが、文字にすることはできますね。ともかくも、あえてその違いを表現するとすれば、情報は流れのなかにその身を置くもので、知識は厚みを持たずに雪のように降り積もるものだという感じでしょうか。

この側面的なあやしい表現に依拠させていただきますと、数多に流れる情報を捉え、蓄積し、さらに情報の発信主体になることを宿命づけられている名称をもった「奈良県立図書館」は、湖のような存在といえるような気がします。深く澄んだ湖水から、支流に多くの水を流すためには、館職員の方々はいうまでもなく、利用者の方々の意欲的な活動が不可欠

かと思われれます。コツはなにより楽しむことです。浅く深く、このすてきな機会と場所を楽しむことができれば、皆さんにとつてかけがえのない図書館、というだけでなく、支流のさき、まだ見ぬ誰かを潤すこともできるにちがいありません。今後のご発展をお祈り申し上げます。

柴田宣史
(有)時代工房代表





デジタルスタジオ



オーサリングルーム

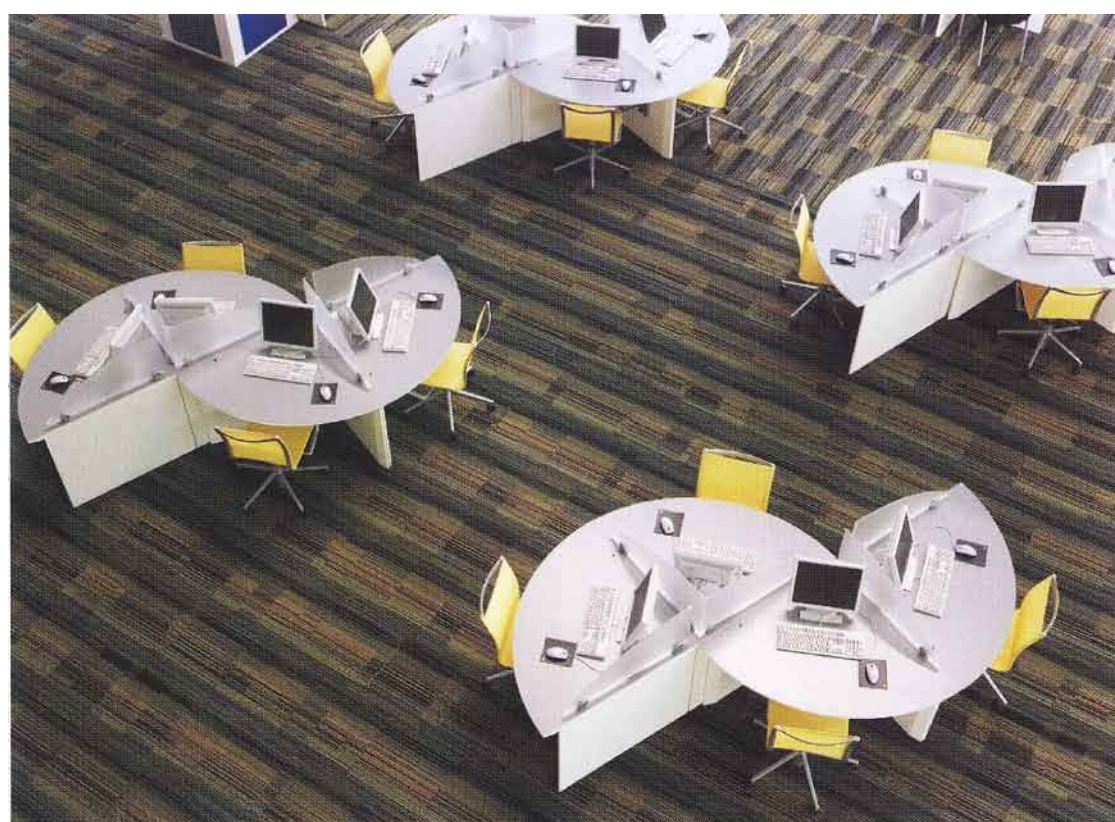
二階閲覧室に入つてすぐ左側が情報資料のスペースです。ここには、後でご案内するアトリエ及びオーサリングルームで使えるソフトの解説書等を含む情報系の資料が入門書から高度なものまで約二五〇〇冊そろっています。

情報系資料のスペースを奥に進むと右奥に丸いオブジェクトが見えてきますが、その下のコーナーがアトリエです。アトリエにはDTP等につかえるソフトをインストールしたパソコンが五台置かれており、自由に使用して頂くことができます。情報資料スペースで見つけた資料を見ながら実際の作業を行つてみたり、CD付の資料のCDをその場で見たりすることが出来ます。

アトリエの左横のガラス張りの部屋がオーサリングルームです。ここには、映像のノンリニア編集が可能な高性能な情報機器が二セット置かれており、アトリエの機器ではできない、音声、動画等の素材を加工したうえでDVDを作成したりすること等が行えます。

なお、オーサリングルームにつきましては、あらかじめ予約して頂いたうえで、時間三五〇円の料金を頂くことになっています。

ご案内してきました図書情報館の機器を使用して、是非、あなたの思いをかたちにしたいと思えます。



連載

第1回図書情報館ツアー

セミナールーム



図書情報館ツアーということで、今回は、今までの図書館とは異なる図書情報館ならではの情報創造のための施設をご案内したいと思います。

<世界に通用する日本の書の可能性へ>

この字は、
創造の「創」という字の「リ」を「人」にし、
漢字一文字で、「創造人」と読みます。

書家を志して以来、
私の名刺の裏や発信するモノには必ず、この字をつけてきました。
「書を通じて、時代やモノコト未来を、創造する人になる」
そんな想いからです。今も変わることはありません。

書には、
美術品としての要素と、
文字を表わす表現手段としての要素があります。

私は後者の可能性を信じ、また、それがいま私がやりたいことで、
やれることで、やっていることです。

書という表現手段を使い、文字をイメージ表現・絵にしていくことや、
字に表情感情をつけ、単なる情報としての文字をそれ以上のものにしていく。

そして、
その都度求められている最良の答え - 最も適した字 - で
応えていくことができれば、そうすることできっと、
日本の伝統的な書は、世界に通用する文字を表わす
手段にすらなり得る、そう思っています。信じています。

世界に通用する日本の書。
文化としての書ではなく、文字を表現する手段として世界標準となる書。

それぞれの国の言語で、書という表現手段で文字に感情や表情をつけていく。
音楽のように、書の表現も、国境を越えて、理解されていく。
ついには、フォント文字のハリウッド映画のタイトルも、書の表現に注目する。

世界に通用する書へ、諦めずに、前へ進んでいきたいと思えます。

Collection
de l'Art Brut



連載

若い奈良

書家 ^{ししゅう} 紫舟さん

- 6歳より書始める
- 01年7月 初個展で書家デビュー
- 02年7月 神戸で書家を仕事としてスタート
- 03年1月 奈良にアトリエを移転
- 04年6月 海外初仕事
- 04年7月 国際選抜展で「ディ・マウロ賞」受賞
- 05年6月 ベネチアビエンナーレ企画展参加
- 05年8月 東京へアトリエを移転

作品名：創造人



図書館が読む



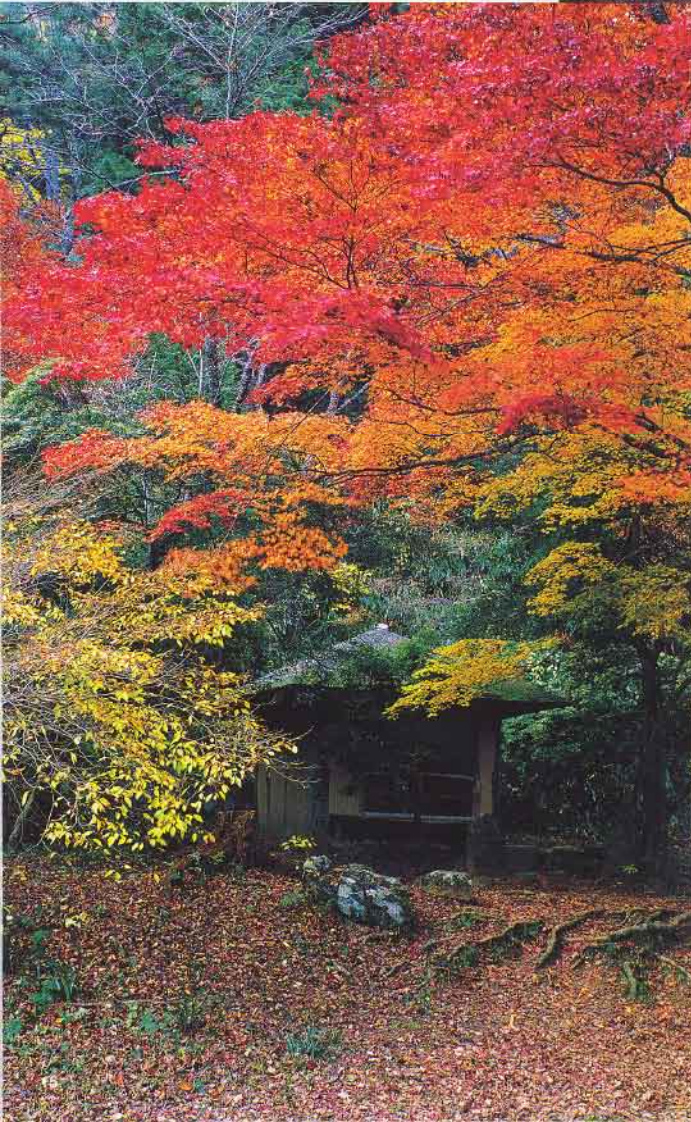
修験道

修験道とは、役行者(えんのぎょうじや)が開いたとされている修行の道のことです。

一〇〇〇年以上もの間、修験者は、この道で厳しい山岳修行を行い、悟りを開いたそうです。

昨年、世界遺産に登録された「大峯奥駈道」では、奥駈(おくがけ)といわれる修行が行われています。

当館所蔵資料より
五来重 編 『修験道の伝承文化』 /
宮家準 著 『役行者と修験道の歴史』



吉野山

春は桜、秋は紅葉で有名な場所です。また、昨年には、修験道の拠点と言われている霊場「吉野・大峯」が世界遺産に登録されました。現在、吉野山では、金峯山寺をはじめ、九寺院で、「吉野山寺宝まつり」が来年八月末まで、開催されています。

当館所蔵資料より
首藤善樹 著 『金峯山寺史』 / 山と溪谷社大阪支局編集 『世界遺産の森へ』 : 紀伊山地の霊場と参詣道

写真提供 / 吉野町



写真提供 / なら灯花会

五十二段

猿沢池から興福寺へのぼる石段の数は五十二段。善財童子が五十二人の賢人を尋ねまわったという故事に因みこの五十二の階段は、仏門に入る修行の階段を表わしているそうです。

不審ヶ辻子

奈良町にある町名。その昔、元興寺の僧が鬼を退治しようと追いかけていたところ、ある細い道で鬼の姿を見失ってしまいました。その場所を人々は不審ヶ辻子と呼ぶようになりました。

庚申さんと身代り猿

奈良町の家々の軒先には「身代り猿」と呼ばれる赤いぬいぐるみがぶら下がっています。庚申信仰によると、人の体内に棲む「三尸の虫」が庚申の夜にその人の悪事を天帝に告げ口するので、人々は庚申の夜は寝ずに過ごしました。身代り猿は天帝に知られた怒りを代わりに受け止めてくれるのだそうです。

当館所蔵資料より 北村信昭 著 『奈良いまは昔』 山田頼夫 著 『奈良町風土記』

「編集後記」

芸術の秋

スポーツの秋

旅情の秋

味覚の秋

秋まつたなかの二〇〇五年十一月三日

東に若草山、大文字の高田山、西にイルミネーション輝く生駒山、
万葉集に詠まれた佐保川沿に、

奈良県立図書情報館が誕生しました

美しい紅葉に彩られた古都奈良で新しい歴史が始まります

子どもたちは「心待ち」にすることが、いろいろにあったのに、

長ずるにしたがつて、すっかり忘れていた言葉

皆様はきっと図書情報館の開館を心待ちにされておられたことでしょう

読書の秋を、そして図書情報館を満喫してください

図書情報館とともに、この「ナラヨム」も

かわいがっていただきますことを職員一同願っております

発行者 (株)南都銀行／(株)明新社

企画編集 奈良県立図書情報館

題 字 紫舟

平成十七年十二月二十六日発行